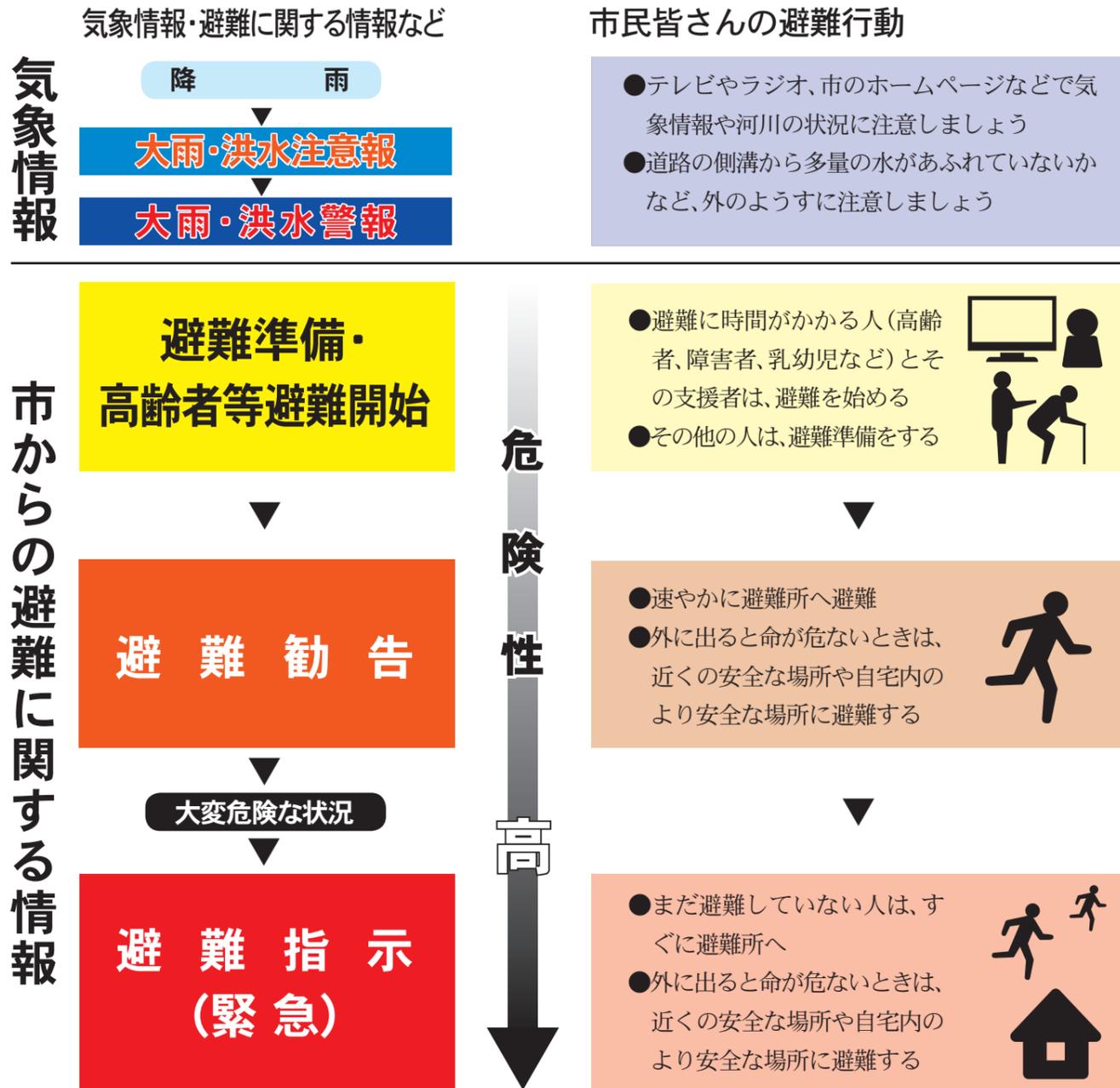


風水害から身を守るために 大切なのは、危険を知って、備えること

近年、豪雨や台風などによる風水害や土砂災害などが増えています。もし狭山市で同じような災害が起きたとき、あなたは避難行動をとれますか。災害が起きてからでは間に合いません。いざというときに避難行動がとれるよう、日頃の備えを見直しましょう。

■ 気象情報や市が発信する避難に関する情報と皆さんの避難行動の例 (図2)



(図1)



■ 大きな被害をもたらす豪雨災害

先月発生した「平成30年7月豪雨」では、広島県や岡山県をはじめ、西日本の広い範囲で河川の氾濫や土砂崩れが発生し、多くの尊い生命が犠牲となりました。

こうした風水害や土砂災害などの自然災害は、狭山市も含め、どこでも起こる可能性があります。災害は、他人ごとではありません。災害による被害を少しでも減らせるよう、私たち一人ひとりが「防災は自分のこと」として捉えることが大切です。

風水害や土砂災害は、迫りくる危険を事前情報として受け取ることができません。いざというときに慌てずに行動できるような、事前の準備や情報収集を心掛けましょう。

■ 今すぐ確認してほしいこと

check 1 周辺の危険箇所を確認

自然災害から身を守るためには、自分の住む地域や、勤めたり通ったりする場所に、どのような危険が及ぶかを事前に知っておくことが重要です。

洪水ハザードマップなどでの確認や、通勤や通学で通っている道路沿いに河川や側溝はあるかなど、事前に確認しておきましょう。

市では、平成27年5月に、「入間川洪水ハザードマップ」を作成しています。このマップには、埼玉県が指定した、大雨により入間川が氾濫した場合に浸水することが想定される区域と、崩壊する恐れのある急傾斜地を示しています。また、入間地区防災計画策定協議会と市が協働して、28年8月の台風9号による不老川の浸水箇所を記した、「不老川流域防災マップ」も作成しています。

2ページの図1には、それぞれのマップで示された浸水想定箇所などを記しています。詳細な位置は、それぞれのマップで確認してください。マップは、危機管理課地区センターで配布しているほか、ホームページからもご覧いただけます。

check 2 避難に関する情報を確認

市では、大雨や台風などの際に、災害から市民の命を守るための避難に関する情報を発信します。その情報は、降雨量や周囲の状況に応じて、①避難準備・高齢者等避難開始、②避難勧告、③避難指示(緊急)の3段階に分かれています(図2)。